

### 第3章 紀州徳川家の時代



時代区分	旧石器・縄文・弥生時代
	古墳時代
	飛鳥・奈良・平安時代
	鎌倉・室町時代
	戦国・安土桃山時代
	<b>江戸時代</b>
	明治・大正・昭和(戦前)時代
昭和(戦後)・平成時代	



## 「御三家」紀州藩と徳川頼宣

### 御三家紀州藩の成立

紀伊 徳川家の初代徳川頼宣は、徳川家康の10男として、1602（慶長7）年に伏見城（京都市）で生まれました。家康が61歳のときの子で、わずか2歳で水戸城主（水戸市）となり、20万石の大名に取り立てられました。しかし、幼少のために家康の側で育てられ、一度も水戸に行くことはありませんでした。

1609年、頼宣は家康から領地を加増されて駿河・遠江（ともに静岡県）・東三河（愛知県）50万石の領主となり、家康と同じ駿府城（静岡市）で生活していました。その後、頼宣は、父家康が死去して3年後



徳川頼宣画像（明治時代 和歌山県立博物館蔵）

の1619（元和5）年に、兄の2代将軍秀忠によって家康より譲られた駿府城から和歌山城に移されました。これは、秀忠が自分の3男忠長に駿府城を与え、弟の義直（家康9男・尾張徳川家の祖）・頼宣と同格の大名にするためでした。忠長が兄家光と3代将軍の地位を争って自害させられていなければ、この3人が「御三家」になっていたでしょう。

しかし一方では、幕府の支配を安定させるためには、政治の中心である江戸と経済の先進地大坂を結ぶ幹線航路をおさえる必要がありました。そのため、航路の喉元にあたる紀伊半島に最も信頼できる大名を置く必要に迫られていました。そこで秀忠は、弟の頼宣を駿府から和歌山に移すことにしました。こうして頼宣は、5万5,000石を加増されて紀伊・伊勢（和歌山県・三重県）両国55万5,000石の大名になりました。この転封に関連して、家康から頼宣に付けられた付家老の安藤直次と水野重仲に田辺城（3万8,800石）と新宮城（3万5,000石）をそれぞれ

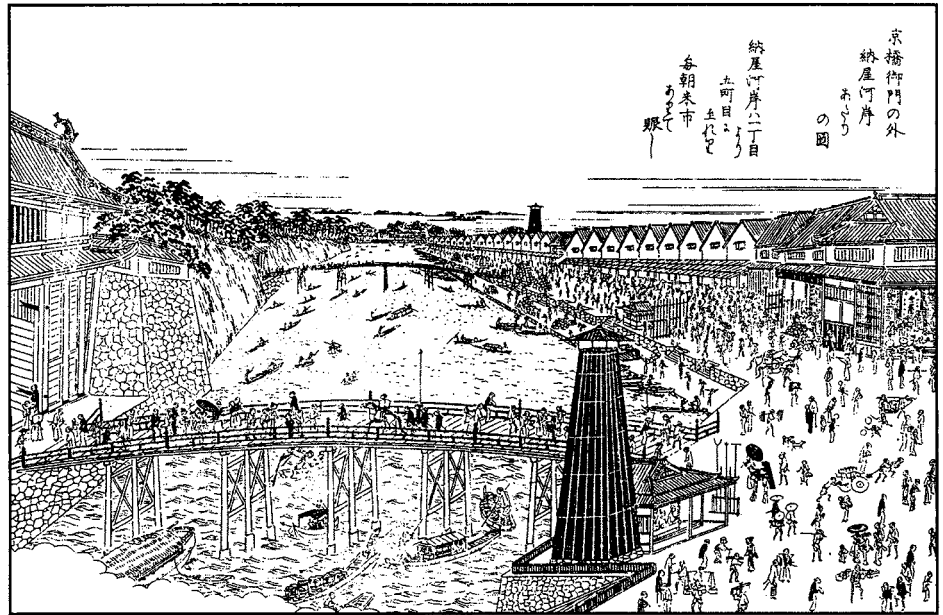
与えてここを守らせました。さらに伊勢の田丸城（玉城町）には久野宗成を置き、松坂城（松阪市）には城代を置いて治めさせました。

### 徳川頼宣の政治

和歌山に移った頼宣は、幕府の期待に応えるように領国の安定につとめました。頼宣の紀州藩主時代は、1667（寛文7）年に隠居するまで48年間に及びますが、この間、藩の体制を確立するために多くの政策を実行しています。

\* 1 幕府から紀伊徳川家に付けられた家老。

頼宣は、紀州への初入国に際して、前もって家臣の戸田藤左衛門を派遣して紀州の事情を調べさせました。1614年と1615年に起こった紀伊国内の一揆を意識したからです。藤左衛門は地元有力者3人から浅野氏の施政について尋ね、入国への準備作業をしました。さらに頼宣は、入国後ただちに牢屋の普請を命じ、領内の不測の事態に備えました。また、紀州の中



京橋御門「紀伊国名所図会」

世以来領内各地に住んでいた在地の武士をくわしく調査して地主に任命し、家臣にしました。頼宣は、和歌山城と城下町の整備に着手し、父家康を祭る東照宮を和歌浦に建立しました。藩の支配体制確立のため、行政制度を整備して、郡の下に組を設け、組ごとに大庄屋1人を置きました。大庄屋は組内の村々の庄屋を支配しましたが、組の石高は平均9,000石ほどでした。

法令面では、1635（寛永12）年8月、農民に対して稲の豊凶によって年貢の税率を決める検見を公平にするため、法度を出しています。また、家臣に対しては1641年2月、「御家御条目」（箇条書きになっている法律）を公布しています。この条目はもっとも重要な法令で、以後、藩主の代替わりごとに多少の改訂はあるものの必ず発令されました。

このように頼宣は、藩政の確立のために行政面・法制面を整備するとともに、多数の牢人を召し抱えるなど家臣団の充実にもつとめました。しかし、産業の開発や土木工事を奨励したこと、家臣団の増強による出費や参勤交代の費用で次第に藩の財政は窮乏の度を加えていきました。そこで、財政の窮乏を打開するため、1646年（正保3）に「今高制」を実施しました。この制度は、家臣団の俸禄を数字上のごまかしによって削減したものでした。

教育政策では、1660（万治3）年正月に「父母状」を公布しました。これは頼宣が自ら文を作成し、儒



紀州東照宮

臣李梅溪に清書させたものです。内容は、親孝行、法律の遵守、謙虚、勤勉、正直であることを説いたもので、この趣旨を領内全般に周知徹底させました。これ以後、「父母状」は廃藩置県まで大切に教えられ続けました。また頼宣は、名所旧跡の景観などを守ることに熱心でした。ある日、家臣が和歌浦周辺など、7、8か所の絵図をもって新田開発が必要なことを説きました。このとき頼宣は、「自分の欲望のために名所旧跡をこわして新田にしたと、後世の人に笑われたくない」と、名所旧跡を守るように命じています。